

## 令和元年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

### 「第41回 さんべ祭」

#### 1 趣 旨

- ・三瓶山周辺地域の施設・団体が、連携・協同して地域の魅力を発信することで、三瓶山周辺地域の良さを知ってもらうとともに、地域の活性化を図る。
- ・島根県西部地震から1年が経過したことから、地震からの復興と今後の発展を願うとともに、防災に関する意識を高める。

#### 2 事業の概要

テーマ：『よーい(41)どん！ 令和もさんべでよよいのよい (41)』

三瓶の魅力であり、参加施設の強みである「体験」「文化」「交流」「健康」を活かした様々な企画を展開し、三瓶地域の魅力を伝えることで、参加者に三瓶地域を好きになってもらう。また、いろいろな地域から家族やグループが三瓶地域に集まることで、多くの交流が生まれる契機とする。

41回目を迎えるさんべ祭が、新しい時代の幕開けとなることを願い、『よーい(41)どん！ 令和もさんべでよよいのよい (41)』とした。

(1) 期 日 令和元年10月19日(土)～10月20日(日)

(2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家、島根県立三瓶自然館サヒメル、三瓶こもれびの広場木工館  
三瓶山北の原キャンプ場・大田市山村留学センター・SANBE BURGER・山の駅さんべ

(3) 来場者 日帰り2日間総計：8,242人 宿泊：200人

(4) 日程・内容

○ステージ発表

【19日(土)】講堂ステージ 神楽 11:00～16:00 三瓶神楽実行委員会 (開場10:00)

- ・大屋神楽社中「達谷窟」<sup>たつこくのいわや</sup> ・後野神楽社中「頼政」「大蛇」 ・穴笠神楽団「伊吹山」「戸隠山」
- ・夜神楽 19:00～21:00(宿泊者対象) 多根神楽団「恵比寿」「大蛇」

【20日(日)】広場ステージ 10:00～15:00 ※雨天時:講堂

- ・山村留学センター「北三瓶っ子太鼓クラブ」 ・大社高等学校 合唱部
- ・地域で活動している、団体 ・近隣のキャラクター(しまねっこ みさ坊 らとちゃん 等)
- ・エンディング「よしと」 14:20～15:00

○体験ブース

- ・ボルダリング体験 ・さんべ夢ステージ(ボランティアによる企画) ・石見交通バス乗車体験
- ・自衛隊 防災に関する企画 ・大田高等学校茶道部 ・ドローン体験 ・木工館
- ・山村留学センター ・チチヤス ・神楽面 ・森林管理署 ・美郷町観光協会 等

○三瓶地域の物産展示・販売

新鮮野菜、菓子、加工品、パン、小物、そば、天ぷら、焼きそば、からあげ、しまねの工芸品  
やまめの塩焼き(つかみ取り)、民芸品、ジュース、フリーマーケット 等

○三瓶ウォーク 10月20日(日)

○さんべそば祭り 西の原 10月20日(日)

#### 3 事業の特色

さんべ祭は、三瓶周辺地域の魅力発信と活性化に重点を置き、三瓶周辺地域の施設・団体との連携・協働のもと、実施していくことを意識している。

初日のメインを「さんべ神楽大会」、2日目を「ステージ発表」とした。今年度、石見神楽が「日本文化遺産」に認定された。神楽の魅力を多くの人に実感してもらえるように、神楽のチラシ・ポスターを先

行し配布する方法で広報に務めた。ステージ発表は、マスコットキャラクターの登場や島根を中心に絵本紙芝居で活躍されている「よしと」氏によるエンディングの他、周辺地域で活躍している団体に各種発表をしてもらった。

体験ブースでは、石見交通のバス乗車体験、大田高等学校茶道部のお茶席等の地域に根差した体験活動の場を提供した。また、三瓶地域協育ネットワークの体験ブースとして、美郷町観光協会、山村留学センター、森林管理署、福間牧場の紹介で「三瓶高原牛乳」を製造しているチチヤス等に、様々な体験活動の場を提供していただいた。さらに、島根県西部地震から1年が経過し、地震からの復興と、防災を意識するために、災害時のグッズやパネル、車両を展示する等、自衛隊の体験ブースを設置した。

さらには、宿泊しての利用を広めるために、夜神楽を開催し、神楽の鑑賞と衣装を着る体験を設定した。翌朝には、宿泊者限定企画として、ノルディックウォーク、ボルダリング、ヨガ、さんペリンピックを開催し、宿泊者が充実した時間を過ごせるようにした。

#### 4 成果と課題

##### 《 成 果 》

- 内容の充実化と、松江市方面の広報を充実させるとともに、宿泊者対象のプログラム（夜神楽、朝活）を充実させたことに伴い、宿泊利用者が倍増となった。今後も1泊2日の宿泊型のイベントとして、「さんペ祭」を継続して、持続可能な形で実施する上での実施のノウハウが定まった年となった。次年度以降も方向性を大きく変える必要は無く、基本的に、今年度の形式を踏襲しながら、出た問題点を精査し、運営の負担軽減も含め 開催方法を探ることが出来れば、イベントとして良い方向に向かうと思う。
- 今年度は、所内全体の会など、動きはじめが早くてよかった。出展団体との連絡など、担当としての見通しも立てやすく、早めに動けた。何よりも、1日目の神楽メイン、夜の神楽イベントが定着してきたこともあり、宿泊人数に繋がられたのが良かった。

##### 《 課 題 》

- 今年度は今までと比べ、動き出しが早かった。しかし、結局直前にあわただしくなることになっていた。やはり情報共有が課題であると思うので、業務の忙しい環境等に関係なく共有できる場の設定が必要であると感じた。
- 「1日目のメインを神楽にするなら、展示や体験ブースはどうするのか。」「販売関係にどのくらい呼びかけ、出店してもらうのか。」等、1日目にやることと、2日目にやることを整理する必要がある。



さんペ祭チラシ



さんペ祭神楽チラシ

